

1. 概要：

- ・初参加3名を含む総勢11名で「なぜ不倫は非難されるのか？」という問いを掲げて、主に、不倫は悪いことか、結婚が前提する理想は何か、なぜ非難するのかについて対話し、考えた。

2. 対話：

(0) 問いの提起

- ・進行役から過去回「不倫は許されないのか」の対話内容*1)を紹介した上で、今回の問いを提起し、対話を始めた。

*1) 第81回さろん哲学 (2017年5月17日)

(1) 不倫は悪いことか？

- ・結婚は婚姻関係にある男女が社会に互いの関係性をオープンにする仕組みであり、一種の契約である。不倫は、その契約違反であるから、ダメである。
- ・性的な関係を誰と結ぶかはプライベートなことであり、なぜ第三者が非難するのが分からない。有名人の不倫を非難して騒ぐことはそこに群がる大衆の問題である。不倫は当事者間の問題で、第三者が言うことではない。
- ・女性週刊誌等のメディアが有名人の不倫を報道しているが、本当に非難か、騒いでいるだけか。良く分からない。過去の「ミッチー・サッチー論争」という騒動に似て、ただの暇潰しではないか。ちゃんと非難している事例を考えた方がよい。→有名人だけでなく、一般人の例も考えてみたい。
- ・婚姻関係を維持したままその外で性交をすることを不倫と定義してみる。もしそうしたいなら、離婚してから、相手と性交をすれば良いだけである。
- ・不倫は発覚すると家庭崩壊に繋がる。結婚は契約であり、不倫はその合意を破ることなので良くない。

(2) 結婚が前提する理想は何か～男女間格差

- ・一般的に不倫は良くないと非難されているが、その背景には、永遠の愛のように、永遠に変わらないものを大事にしたい、賛美したいという願望があるのではない。
- ・変わって行くものは良くない。一方現実には、人間の心・気持ちは変わり易いということも分かっている。永遠の愛を誓う。それが裏切られる。だから良くない。→永遠を絶対とすることに無理がある。
- ・ポリアモニーという複数恋愛主義を表明している人がいるが、その場合には不倫という概念はない。
- ・互いの気持ちは永遠に変わらないと宣言して結婚するが、一方で現実には、互いの気持ちは変わり易いから、互いを縛るために結婚をし、破ったらいけないと互いを律している。
- ・愛情は人生を作るツールであって、それを破ると生き方の否定である。
- ・人間の本質は、時間の経過と共に気持ちは移り変わり、自由である。だから、財産や子育てを共同で行うためにその当事者間で愛情・エロスを押し込めることにしたが、どうも無理がある。
- ・日本社会には、まだ男女間格差がある。女性差別はまだあるし、女性の一人世帯の生活保護の受給率や貧困率が高い。1980年代後半に雇用機会均等法、ほぼ同時期に派遣法も施行され、結局多くの女性は派遣として雇用され、給与水準が低い。だから女性は離婚したくてもできないという社会環境がある。
- ・先祖崇拝の観点から誰の子供かをフォローする必要があり、誰の子供か特定するために結婚がある。
- ・男性が不倫したら離婚に際して女性は経済問題を抱える。女性が不倫したら男性は滑稽の対象となる。

(3) なぜ非難するのか？

- ・不倫は肉体関係だけでなく精神的関係もある。だから合意から逸脱した行為となり、尊厳を裏切る。
- ・女性の友達が不倫をしたという話を聞いたとき、私(女性)にはその不倫相手のことなんてどうでも良かったし、その友達を非難しなかった。現実には、不倫をしている人は山ほどいる。本当に禁止したかったら法律で罰すれば良いがやっではないか。ダブルスタンダードではないか。
- ・不倫を非難している。善悪の判断より、不倫された方に寄り添う同情の気持ちから相手を非難する。
- ・韓国には未だに姦通罪がある。日本にも昔はそういう価値観があった。だから非難をする。
- ・婚姻関係がうまく行かないとき離婚という選択肢があるのに、でもないのは狭い。だから非難する。
- ・不倫は、殺人や窃盗のように損害の程度を測ることが困難なので、刑事でなく民事ではあるが、配偶者から合意を得ずに婚外相手と性交したら離婚成立の理由となる仕組みが国の制度としてある。
- ・非難しない。多様な家族の形態があり、現実には、二股、三股…二人や三人を同時に好きになることがある。不倫は止めようもないし、受け止めるしかない。
- ・「非難」という概念はこれだけで一つの哲学対話のテーマになる位に深く、難しい。
- ・非難には、羨ましい気持ちが含まれていないか。→自分の経験に照らして羨ましいとは思わなかった。
- ・普段芸能人のゴシップを一切語らない人が俳優の東出昌大は酷いと言っていた。それは、子育ての真っ最中の妻を放っておいて不倫をしたという点から、妻で女優の杏に同情していた。
- ・人間の本質が結婚制度に合っていない。昔から夜這いや祭の夜の乱交のように、人間は自身の肉体を自由に処してきた。現実にはそんなに悪いことではないのに、悪いとされている。
- ・不倫された側に寄り添う気持ちがあるという点に同感。善悪の判断と言うよりも、不倫をしているのに、家庭生活をうまく続けていて、羨ましく、ずるいと思う。
- ・配偶者に内緒で婚外関係を維持したい気持ちを感じる。不倫をしたかったら離婚してからすれば良い。
- 婚姻関係を維持したままというのは、婚姻相手にまだ気持ちがあるからと思うので、非難できない。
- ・不倫を内密にしているのは、配偶者に対して愛情がなくなった現状を変えたくない場合もある。真摯に配偶者のことを考えていたらできないはずで、不倫をする人は倫理観が欠けている。父親が不倫をしているとその娘が男性不信になるという例もある。倫は人の道であり、気持ちが変わったら離婚して再婚すべき。非難されるべきは明らか。
- ・失樂園という不倫物語が大ヒットした例もあり男性にはそういう願望があるが、自分は我慢している。
- ・不倫された側もある程度の責任があるのではと思うので非難はできない。また、男性の不倫を火遊び的であると、女性がドッシリ構えて理解して許してあげられたらカッコいいと思う。
- そう考えがちではあるが当てはまらない。性的暴力の事例を挙げるまでもなく、やられた側には責任はない。
- ・なぜ不倫をしてしまうのか。不倫は正しくない。だが、正しくない分かっているがやってみたくなることはある。
- ・今の現実とは別の現実を求めたい幻想に惹かれる。また今の現実も捨てたくない。両方欲しい。
- ・被害と加害があったとき、被害者はその加害を正当化する理由にはならない。
- ・「夫が不倫しても妻はドッシリと構える方が良い」という考え方は伝統的な通念で、今の日本社会では、ドッシリと構える態度は収入を確保したいだけと捉えるべき。男女の立場を入れ替えても成立するかを考えれば分かる。

(4) 思考実験～結婚における性交渉欲求不一致のケース

- ・(思考実験)妻が不倫をしている。夫には性交渉欲求がない。妻(彼女)は婚外の相手と性交渉を行った。この場合は、彼女は非難されるべきか？→夫婦間で熟議が必要。隠し事は良くない。
- ・彼女は離婚すれば良い。セックスレスの相手に対して自分はしたい。性欲求を晴らすために、婚外に相手を求めるのは相手に失礼である。夫婦間で解決すべきことに婚外の相手を道具として使うことは、外に被害者を作るだけ。
- ・思考実験だが、どちらが悪いかは分からない。人間関係のことは、どちらが非難されるべきか問えないのではない。本当は難しいことなのに、それをメディアはやっしてしまっている。
- ・不倫をするなら結婚をしなければ良い。最近ではでき婚が4割に上るといふ。無理に結婚をしない方が、人権侵害にはならない。そのためには、シングル親でも子育てし易い社会にしなければならない。

3. まとめ

- ・不倫は悪いことか、結婚が前提する理想は何か、なぜ非難するのかへと思考は及んだ。問いの提起者としては、非難の動機として、善悪の倫理観よりも不倫された側への同情・寄り添う気持ちが強いという意見に興味を湧いた。